

## 生き延びろ！ ガラパゴスのゾウガメ

理事

椎野孝雄



日本には「ガラパゴス化現象」が起きているといわれている。ガラパゴス諸島は、南米大陸から西に900kmの太平洋上に位置する火山諸島である。火山活動でできた島のため、土壌の栄養が不足し、水、草が少ない島である。そこで、この厳しい環境に適応したゾウガメ、イグアナなどの爬虫類の種が繁栄し、大型の哺乳類は生息していなかった。

15世紀の大航海時代に、スペイン人がこの島を発見し、大変革が起きた。海賊が基地として使い、家畜としての羊の放牧が始まった。食料あるいは油の取得のためにゾウガメの乱獲が始まり、羊が草木を食べることでゾウガメ、イグアナが絶滅の危機に瀕した。現在は、世界遺産としてなんとか保護されている。ただ、「ロンサムジョージ」と呼ばれ有名になったガラパゴスゾウガメの亜種の最後の生き残りは、他の種との交配を試みられているが、老齢のため興味を示さず、もはや繁殖は困難と考えられている。

日本の産業も、絶滅する前に自らの遺伝子を大陸に広げることを考えなくてはならない。特にここでは、日本に固有になりがちで、グローバル化の遅れるサービス業が、いかにして海外に展開するかを考えたい。

サービス業のなかで、海外展開が成功しつつあるものに、テレビの番組販売がある。海外売り上げが100億円を超えようとするテレビの番組販売のなかでも、フォーマット販売という形態が成長している。これは、日本で制作した番組の企画を販売し、各国の制作スタッフがリメイクするものである。フジテレビの「料理の鉄人」は、日本でもヒットした

が、米国では「アイアンシェフ」というタイトルでリメイクされ5年間の長寿番組となり、南米にも展開されている。最近では、アジアの放送局がバラエティ番組、トレンドドラマなどの企画を購入し、リメイクすることが進み始めている。

当初フォーマット販売のマーケットは欧米であり、アジアは制作された番組そのものを購入していたが、近年はフォーマットの購入に代わってきている。その理由は、これらの国々の経済水準が上がり、番組制作ができる資金力がついたこと、自国民が出演する番組を欲するようになったことと並行して、現地の番組制作技術の向上がある。テレビ番組の制作技術については、日本には専門学校という仕組みと教育ノウハウがあり、海外援助も行われてきた。これによる技術力アップがあるため、日本が企画した番組を現地スタッフが制作するという体制が可能になり、フォーマット販売が成立する。

また、ウェディングビジネスのアジア展開も注目されている。リクルートが発行する結婚情報雑誌『ゼクシィ』の中国上海版の発行部数は6万部となり、日本の首都圏版の4万部を上回る発行となった。

これまで中国では、日本のようにホテルなどでの豪華な結婚式は行われていなかったが、経済力の向上と生活様式の変化により、日本型の豪華な挙式、写真・ビデオ撮影、エステティックなどが受け入れられ、ウェディングビジネスが台頭している。2008年2月号の本誌で紹介したワタベウェディングも成功している。中国におけるこのウェディングビ

ジネスと日本企業の進出を支えているのは、日本の専門学校、大学におけるホテル・ブライダル学科で、現在、アジアからの留学生に人気が高いとのことである。

実際、専門学校にアジアからの留学生についての話を聞くと、製造業系では自動車系学科の人気の高いが、サービス業系では、韓国の学生からはゲーム、アニメ系の学科の popularity が高く、台湾からの学生には放送、映画、音楽系の学科の popularity が高いという。アジア各国の学生は、日本がグローバルに強みを持つ産業を見極めて、それを学びに来ようとしている。また、卒業後は日本で就職し、経験を積んでから本国へ帰る意向とのことである。

サービス業の国際展開においては、進出先の現地との共生は欠かせないが、その場合、現地の人の感性が日本人に近いことが必要となる。種の交配においても、あまりにもかけ離れた種では交配が成立しない。日本におけるサービス業系の職能教育の提供は、日本人とアジア人を近づけることに有効である。

折しも、2008年1月の福田康夫首相の施政方針演説で、留学生受け入れ30万人計画が示された。これは、現在の12万人の約3倍にもなるが、高等教育の学生に占める留学生比率が、現在OECD（経済協力開発機構）平均の3分の1である日本としては、これで国際水準に追いつくことになる。増加するこれらアジアからの留学生に、日本のサービス業の強みをぜひ学んでもらい、日本で雇用されることで交配可能となり、彼らを通じて日本のサービス業の遺伝子を大陸に広げることが実現できればと思う。（しいのたかお）